

令和2年度

名古屋大学大学院情報学研究科
社会情報学専攻
入学試験問題（専門）

令和元年8月7日

注意事項

1. 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開いてはならない。
2. 試験終了まで退出できない。
3. 辞書の持ち込みは認めない。
4. 日本語または英語で解答すること。
5. 問題冊子、解答用紙2枚、草稿用紙2枚が配布されていることを確認すること。
6. 問題は「形式論理学」「哲学基礎」「社会情報学の諸問題」「環境考古学」「文化財科学」「電子社会システム」「マス・コミュニケーション研究」「国際関係論」の8科目がある。このうち2科目を選択して解答すること。なお、選択した科目名を解答用紙の指定欄に記入すること。
7. 全ての解答用紙の所定の欄に受験番号を必ず記入すること。解答用紙に受験者の氏名を記入してはならない。
8. 解答用紙に書ききれない場合は、裏面を使用してもよい。ただし、裏面を使用した場合は、その旨、解答用紙表面右下に明記すること。
9. 解答用紙は試験終了後に2枚とも提出すること。
10. 問題冊子、草稿用紙は試験終了後に持ち帰ること。

形式論理学

以下の問 1-問 4 のすべてに答えよ。

問 1. 以下の概念について、それぞれ 100 字程度で解説せよ。

- (1) 排他的選言 (exclusive disjunction)
- (2) 真理関数 (truth function)

問 2. P, Q, R は一項述語 (unary predicate) であるとする。以下の問いに答えよ。

(1) 「 P を満たすものは、多くとも一つである」ということを一階述語論理 (the first-order predicate logic) の論理式によって表現せよ (一つも存在しない可能性は排除していないことに注意)。

(2) 「 P を満たすものは多くとも一つである」、「 P と Q を同時に満たすものが存在する」、および「 P と R を同時に満たすものが存在する」ということから、「 P と Q と R を同時に満たすものが存在する」ということが論理的に帰結することを、タブローを使って示せ。

問 3. 古典様相論理 (classical modal logic) について以下の問いに答えよ。

(1) 可能世界間の到達可能性関係 (accessibility relation) に何の制限も課さないとき、 K と呼ばれる体系が得られる。 K では $(\Box(P \rightarrow Q) \wedge \Box P) \rightarrow \Box Q$ が妥当式になることを示せ。

(2) 「どの可能世界にも、その可能世界から到達可能な可能世界が少なくとも一つある」という条件を到達可能性関係に課すことにすると、 D という体系が得られる。 K では妥当にならないが D では妥当になる論理式の例を一つ挙げて、それが K では妥当ではないこと、および D では妥当であることのそれぞれを示せ。

問 4. 古典命題論理について考える。結合子として \wedge と \vee 以外を含まない論理式は、そこに含まれる原子式すべてが真の値をとるときには、必ず真の値をとる。このことを論理式の構成に関する帰納法を用いて示せ。

哲学基礎

次の 1~12 の項目のなかから 5 つを選んで説明しなさい。6 つ以上解答した場合は、採点対象としません。

[美学]

1. ふり説 (pretense view)
2. ごっこ説 (make-believe view)
3. 虚構的指示 (fictional reference)
4. フィクションのパラドクス (the paradox of fiction)

[倫理学]

5. 種差別 (speciesism)
6. 土地倫理 (land ethics)
7. 倫理についての情動説 (emotivist theory of ethics)
8. 魂の三分説 (tripartite theory of soul)

[科学哲学]

9. 奇跡論法 (miracle argument)
10. 過少決定 (underdetermination)
11. 通常科学 (normal science)
12. 操作的定義 (operational definition)

社会情報学の諸問題

以下の問1から問3のうち、1つを選び解答しなさい。2つ以上解答した場合は採点の対象としません。

問1 G.オーウェル (George Orwell) の小説『一九八四年』では、ビッグ・ブラザーが監視カメラを通して全てを支配する全体主義社会 (totalitarian society) が描かれ、それが監視 (surveillance) の否定的なイメージとして流布した。しかし近年、ここで描かれるイメージとは異なる、インターネットや情報技術を媒介にした監視のありようが指摘されることがある。その具体的事例を2つ挙げ、それぞれ肯定的立場・否定的立場の双方から説明しなさい。

問2 社会情報学において、感性 (sensitivity) の重要性が叫ばれるようになっている。以下の問に答えなさい。

(1) 社会情報学において感性とはどのようなものと考えられているか、説明しなさい。

ただし、次のキーワードを必ず用いること。

(キーワード：意識 consciousness、身体 body)

(2) 社会的秩序 (social order) の構成 (construction) において感性が果たす役割について、具体的な研究例を挙げて説明しなさい。

(3) 芸術コミュニケーション (art communication) のなかで感性が果たす役割について、あなたの考えを述べなさい。

(裏面に続きます)

問3 以下の(1)(2)のうち、1つを選び、答えなさい。2つ以上解答した場合は、採点の対象としません。

(1) Society5.0 は 2016 年に日本政府が科学技術基本計画にて提唱した、日本が目指す未来社会のコンセプトである。この Society5.0 の実現に向けて、「IoT (Internet of Things: モノのインターネット)」、「AI (Artificial Intelligence: 人工知能)」、「ビッグデータ・オープンデータ (Big Data - Open Data)」のキーワードを全て使い、どのように推進すべきかについて、具体的事例を挙げつつ説明しなさい。

(2) 市民らがテクノロジーによる手段を用いて公共性の高い地域課題の解決を推進するシビックテック (Civic Tech) に注目が集まる一方、日本では欧米諸国と比較して十分に普及が進んでいないという議論がある。この原因について考察するとともに、日本におけるシビックテック普及を一層進めるための方策について、論理立てて説明しなさい。

環境考古学

縄文文化に見られる「北方からの影響を示す遺物」を1種類あげて、その分布状況や縄文文化全体に与えた影響について述べなさい。

文化財科学

かつて考古学会で大きな問題となった、いわゆる「旧石器ねつ造事件」とはどのようなものであったかを説明し、これに対して「遺構や遺物に基づいて、ねつ造であることを立証する」ためには、どうすればよかったのかを論じなさい。

電子社会システム

以下の問題を2問とも解答しなさい。

(1) 以下の、情報通信技術 (ICT: Information and Communication Technology)に関連する用語すべてについて簡潔に説明しなさい。

1. オープン・イノベーション (Open Innovation)
2. デジタルトランスフォーメーション(Digital Transformation : DX)
3. MaaS (Mobility as a Service)
4. eSports
5. 第5世代移動通信システム (5G)

(2) SDGs (持続可能な開発目標 : Sustainable Development Goals) は国連サミットにより採択された 2030 年までの国際目標である。持続可能な世界を実現するための 17 のゴールと 169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind) ことを誓っている。SDGs の実現に向けて、発展途上国のみならず日本を含む先進国自身に取り組むことの意義を述べつつ、地域の情報化・活性化に繋げるための知的システムまたはそれらを活用したサービスについて、独創的かつ具体的な提案を考案し、その独自性や有効性について説明しなさい。

マス・コミュニケーション研究

問題 (1) から (3) のうち、2 問を選んでそれぞれ答えなさい。3 問とも解答した場合は採点しない。

(1) マス・メディアやマス・コミュニケーション過程を通じて、現実社会的に構成されるという議論がある。こうした議論でよく使用される代表的な理論について、具体的事例を挙げながら説明しなさい。

(2) スチュアート・ホール (Stuart Hall) のエンコーディング/デコーディング (encoding/decoding) モデルについて、具体的事例を挙げながら説明し、このモデルがコミュニケーション論に与えた影響について説明しなさい。

(3) 政治的社会的化 (political socialization) について、定義を明示したうえで、その担い手を 5 つ挙げ、それらの特徴をそれぞれ説明しなさい。

国際関係論

問題 (1) から (3) のうち、2 問を選んでそれぞれ答えなさい。3 問とも解答した場合は採点しない。

(1) インターネットに代表される情報技術の進展やグローバル化に伴い、国家を中心的なアクターとする国際社会から、よりリベラルなグローバル社会が形成されるという議論がある。こうした議論に対する諸批判を、それぞれ具体的事例を挙げながら説明しなさい。

(2) 公共政策における公衆アジェンダ (public agenda)、政策アジェンダ (policy agenda/governmental agenda)、決定アジェンダ (decision agenda/decisional agenda)、メディア・アジェンダ (media agenda) について、それぞれの意味および相互の関係性を説明しなさい。

(3) 情報の非対称性 (information asymmetry) の概念について、具体的事例を挙げながら説明しなさい。